

# GRASP-Japan ムカラバ地域活動報告 (2009 年)

責任者：竹ノ下祐二

2010 年 1 月 25 日

## 1 背景

ガボン、ムカラバ国立公園北部に隣接するドゥサラ、ブング、コンジの 3 村には、かつて伐採会社の基地がおかれ、村人は伐採会社の雇用によって現金収入を得る生活を送っていた。しかし、伐採会社が撤退し、ムカラバが国立公園化された後は、代替経済手段を得られず、村人の生活は退廃している。政府や国際機関がエコツーリズムを導入するための調査を行なったが、本格的な導入に至っていない。

こうした状況のなか、地域住民と協調してムカラバのゴリラ、チンパンジーおよび生物多様性の保全を推進してゆくには、村人の自立支援、村人への啓発活動、将来のエコツーリズム導入のためのキャパシティ・ビルディングが不可欠である。とりわけ、村人の自立支援は、将来にわたってかれらと類人猿が平和的に共存してゆくための必須条件といえる。

2008 年には、ドゥサラに設立された地域 NGO「ディノンガ」と連携し、地域住民の自立支援をおこなう目的で、地域の人々へ医薬品と学用品の寄付をした。また、これまで日本人研究者が使用していた建物を地域のコミュニティセンターとして供出し、拡充を行なった。

## 2 2009 年の活動

2009 年は、コミュニティセンターを拠点とした、地域住民によるエコ・ミュージアム活動にとりくんだ。具体的には、国立公園におけるドゥサラ周辺の地域の森林モニタリングを、住民の手で実施した。また、随時、住民に対してゴリラの映像上映会など啓発活動を継続した。医薬品、学用品に関しては、追加の協力要請がなかったため、本年は寄付を見送った。

ドゥサラには、ディノンガのほかに、エコツーリズムの推進と国立公園管理への協力を目的とした別の NPO が存在するが、昨年まで目立った活動をしていなかった。2009 年になり、WWF などの後押しをうけ、試験的に観光客を受け入れるなどの活動をはじめ、われわれに対しても、人的、技術的、資金的協力の依頼が来るようになった。ディノンガを含め、地域 NPO との連携のしかたを再考する必要がある。

2009 年 9 月より、国際協力機構 (JICA) による国立公園保護事業が開始され、われわれ日本人研究者も専門家として事業に参加することとなった。それにともない、GRASP-Japan の活動目的を達成するための活動のいくつかは、JICA の事業に包摂することが可能となる。

今後は、他の保全プロジェクトとの分業を意識し、大きなプロジェクトの手が届きにくい部分、具体的には、医療支援、教育支援といった、住民が現在生活で直面しており、すぐに対応が必要な活動に重点を置いてゆきたい。

## 3 会計報告

(添付の別紙を参照のこと)

(別紙) 2009年会計報告(ムカラバ)

	収入の部		支出の部	
	項目	金額	項目	金額
JPY (日本円)	前年度繰越金	100,399	次年度繰越金	100,399
	<b>合計</b>	<b>100,399</b>	<b>合計</b>	<b>100,399</b>
EUR (ユーロ)	前年度繰越金	15	次年度繰越金	15
	<b>合計</b>	<b>15</b>	<b>合計</b>	<b>15</b>
XFA (CFAフラン)	前年度繰越金	4,401,411	コミュニティセンター管理人費	180,000
			森林モニタリング活動人件費	1,296,000
			次年度繰越金	2,925,411
	<b>合計</b>	<b>4,401,411</b>	<b>合計</b>	<b>4,401,411</b>